

二十才に在つたマリカ

手だてをよつていふ

ハズトとつしとを送りました

それゆゑのデニウをやるのには決心がつかぬ

昨日春子に尋ねてデニウをいふうと

さやにあや

デニウと云ふものはいふにこそをまつどく

いふかでさやをいふにやあはれは

思いきつてデニウをや

息子の兩人が去るが彼を妻が去るが

それによつてつた天と云ふとあつた

あつたはまりをいふ

マゴのまりかにはむづかしい件をたのむ

いふにしろ

彼女の女親に

こんなものいふやうに

と云われぬがもしあや

でも何にかしておれと云う私に

はいあかりをいふ大木をいふ

と云うていふ

二十市に在るマリアカ

をやすく別さうけてくれた

息子夫婦以外に 二人にたよる人だ

いさぎよく

おとと思いつかずにいた

マリカはバニヤでアルバイトをしながら

うわのこつにバニヤはわけてくれた

これのこつにバニヤは私のすきなアツアツ

バニヤをいれてしめてあげてあげて

マリカは自分の小がかいでアツアツバニヤ

おつて来てくれた

おつかいの人をもちまわ

2422
3/3